

ギターの持ち方



模範的な演奏姿勢

模範的な演奏姿勢はコンサート・ギタリストたちによって実践されています。これはたいへん良い演奏姿勢で、これにより奏者はギターをしっかりと支えることができ、両手を完全に自由に動かすことができ、体はリラックスした自然な姿勢を保つことができます。

自分に合った高さのうでのない椅子を選び、やや前の部分に腰かけなさい。左足の前部を平らな足台にのせなさい（わたしたちの母親そして時には継母である自然は、芸術家たちからたくさんのことを学ぶものです。それで、千年も先には、ギタリストになるべく運命づけられた人は長めの左足をもって生まれてくるようになるのではないかと思います。それまでの間、わたしたちは足台を使わなければならないでしょう）。

右足を椅子の右側におき、つま先とおや指のつけ根のまるい部分を床につけます。

ギターのボディのくぼんだところを左ももの上にのせます。このとき、ギターの表面板が床に対して垂直になるようにし、桿の部分はあまり上に傾けないで、むしろ水平に近くします。

体を少し前方に傾けて、胸でギターを支えます。そうすると、音楽の詩情があなたの心にひびくことでしょう。

こんどは右の上腕をギターのボディの大きいでっばりの部分にのせて、ひじから下を自由に動かせるようにします。

他の支えはなににもなしにギターは安定し、ギターはあなたの体の延長のように感じられるでしょう。

左のうでとひじは体の近くに楽な状態に保っておくように気をつけなさい。

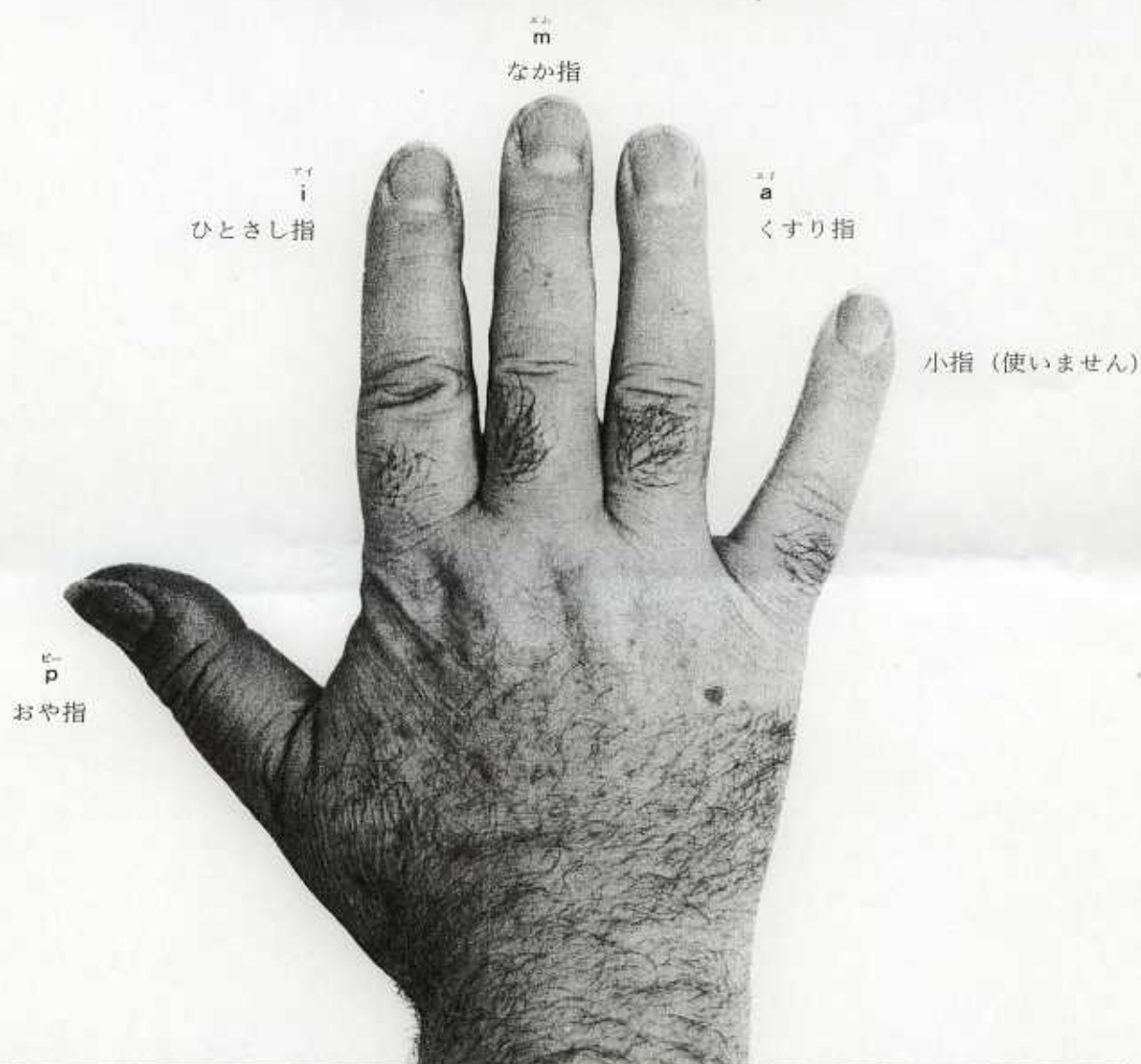
あなたが正しい姿勢を身につけたならば演奏は説得力をもち、きく人たちにあなたの芸術的情感を分かち与えることができるでしょう。つまり、聴衆と演奏家が一体になります。



レッスン 1

右手の構え

ここに右手の5本の指があり、次のように呼ばれます。



右手の小指は使いません。この指で弦をひこうとすると、どうしても右手の正しい姿勢がくずれてしまうからです。

前に述べたように、右うでの上の部分は力をぬき、自由に動かすことができるようにギターの上ののせます。こうすると、右手は自然に手首のところできがかり、指は弦に対してほとんど直角になり、そうして手首、手の甲、指が美しい曲線をなして正しい演奏姿勢を形づくります。

右手を正しく構えておや指でひくと、ひとさし指とおや指は十字を形づくります。

この手の構えを利用してひとさし指(i)、なか指(m)、くすり指(a)で弦をひくのに2種類の基本的な奏法があります。

第一の奏法はアポヤンド奏法で、これは英語で“レスト・ストローク”とも呼ばれます。

指をひいた弦から次の弦にすべらせて音を出します。ゆっくりとした独立している音、テンポのおそい、あるいははやい音階にアポヤンド奏法を用いなさい。

弦をたたきつけないように注意しなさい。弦をひいて、それをひびかせるのです。

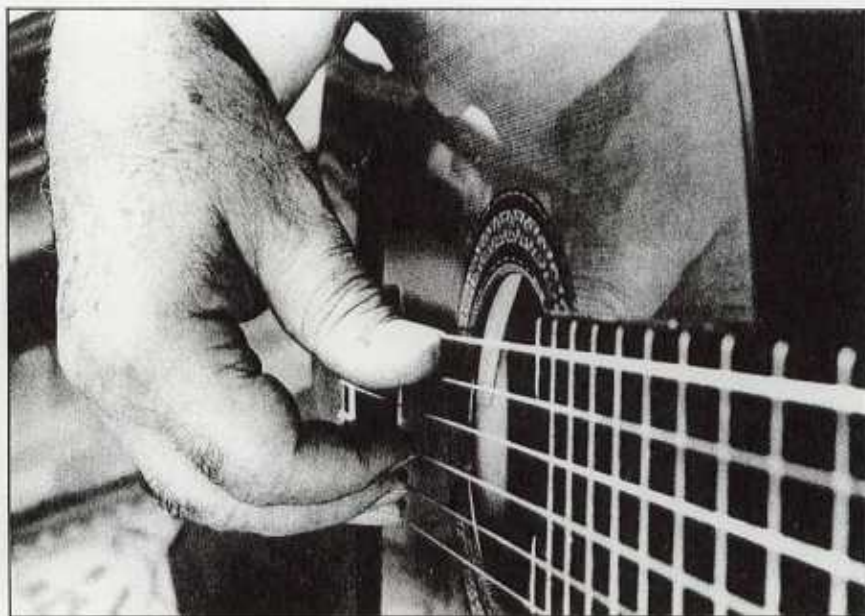


(アポヤンド奏法)



(1はアポヤンド奏法、2はアルアイル奏法。ともにi指で②弦をひいたところ)

i, m, aで弦をひく第二の奏法はアルアイル奏法で、英語で“フリー・ストローク”とも呼ばれます。アルアイル奏法では、指を充分まげて次の弦にさわらないように気をつけなさい。アルベッジョや和音をひくとき、またとなり合った弦が同時に鳴っていないかなければならないときにアルアイル奏法を用います。



おや指(p)以外の指が弦をひいている間、pは低音弦のどれかにとどまらせておらずに、手の位置の変化につれてpを適当な位置に移動していきます。



開放弦 開放弦とは左手の指でおさえないでひかれる弦のことです。次に出てくる開放弦の練習は、すべてi m, m i, m a, a mの指づかいで練習しなさい。

アボヤンド奏法とアルアイレ奏法は別べつに練習することが大切ですが、曲をひくときには、あなたがその音楽にふさわしいと思う表現にしたがって、どちらの奏法を用いようとも自由です。

①弦—E(ミ)



②弦—B(シ)



④弦—D(レ)



(○でかこまれた数字は弦を示します)



つめの手いれ ギターをひくには、右手のつめの手いれを正しくすることがとてもたいせつです。つめの長さは指先よりもすこし長めにします。つめの角はみがついて、指先の形に合わせて形を整えます。明らかに、つめが長すぎると正確で速い演奏ができなくなります。また、欠けたり裂けたりしたつめでは弦にひっかかってしまいます。

左手の構え

左手の各指は次のように呼ばれます：



左手の力のあるおや指は、弦をおさえないで桿のうら側におし当てます。でも気をつけなさい！ おや指は好奇心がつよく、他の指がなにをしているのか見たがります。そうさせないで、他の指が弦をおさえるのにおや指が力を貸してあげるようにしなさい。他の指はすみきった美しい音を得るのにおや指の助けをととても必要としているのです。

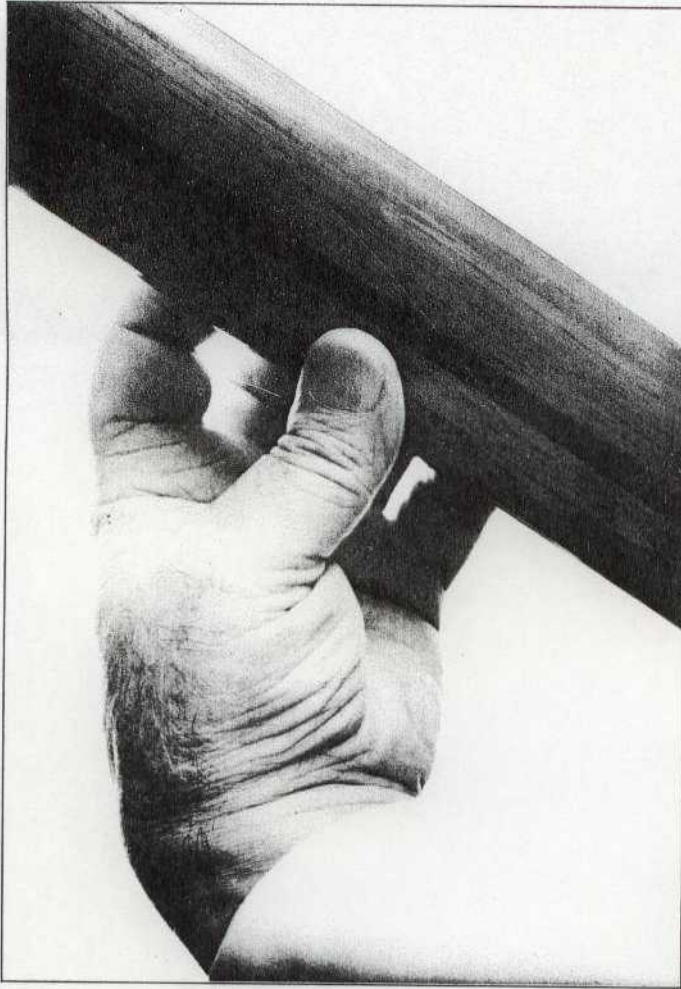
右手の指の使い方についてはもう学びましたので、こんどは左手の指についてアドバイスをしましょう。

1. つめの手いれ

30 左手の指のつめはととても短く切っておき、弦をおさえたときにつめが指板にさわらないようにします。

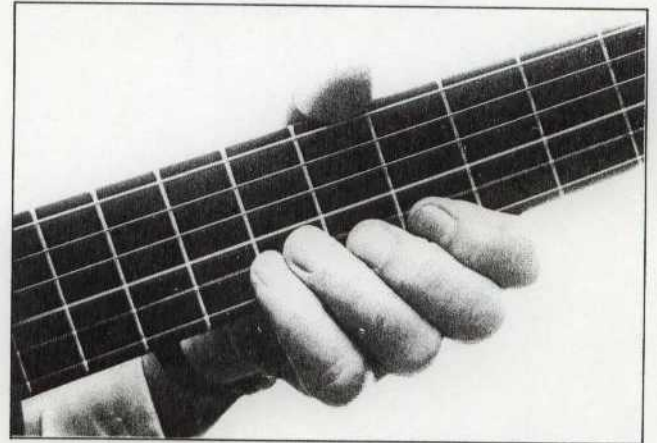
2. 各指は正しい角度で、指先の肉の厚い部分で弦をおさえなければなりません。
3. 左手は力んでちぢめずに、うででじゃまをしないようにして手首から自由に動けるようにしなさい。そうすれば各指は柔軟性を持ち、必要なときにはすごい速さでも動くようになります。

左手のおや指について改めて注意しておきます。おや指がネックから顔を出せば出すほど、他の指が短くなって弦をおさえにくくなります。おや指は指板のうら側のネックのまん中におくべきです。ただし、バレー(セーハ)といって、ひとさし指が全部の弦をおさえるときは別です。



(おや指の正しい位置)

(おや指の正しくない位置)



左手のおや指は心の底で他の指のことをすこしねたんでいます、他の指は音楽を作り、人びとや新聞からほめられるのに、おや指はそれにひきかえ、いつも桿のうしろにかくれているのですから。

指の訓練を始め
良い音楽性を
育てるための
色いろな作曲家の
小さな練習曲集

選曲，校訂，運指
アンドレス・セゴビア

これから勉強する練習曲はよく知られたギターの大家によって書かれたものです。これらの練習曲を、かんたんなものからむずかしいものへと順番にならべてみました。

ヴァイオリン，チェロやピアノの場合，その広範囲にわたる教育の歴史を通じて実に多くの大家たちが出ましたが，ギターの場合はそれに比べて少数の大家を持ったという点がちがっています。

フェルナンド・ソル(1778-1839)，マウロ・ジュリアーニ(1781-1829)，ディオニシオ・アグアド(1784-1849)，ナポレオン・コスト(1806-1883)，フランシスコ・ターレガ(1852-1909)はギターの偉大な大家たちのいく人かです。そしてもっと最近ではエイトール・ヴィラ=ロボス(1887-1959)がおり，彼のギターのための練習曲は真の演奏会用作品です。

この小さい練習曲はフェルナンド・ソルによって書かれました。彼の目的はアボヤンドのひき方を教えることにありました*。しかし、中にはおや指でひかれる音もいくつかあります。

*これはセゴビアの見解で、ソルの意見ではありません(訳者注)。

運指・校訂=アンドレス・セゴビア

フェルナンド・ソル



ウラディミル・ボプリは、わたしが初めてニューヨークへ行ったときからの親愛なる友人です。彼のギターへの愛情はだれにも負けるものではありません。彼がギターに抱く感情は二面的で、フラメンコとクラシックの両方が好きなのです。彼はまた“ファルセタ”を創作し、プレリュード、練習曲、それに次にみられるようなオーソドックスなスタイルの魅惑的な小品を作曲しています。

Andante

Musical score for 'Andante' in 3/4 time. The score consists of five staves of music. The first staff begins with a treble clef and a 3/4 time signature. The tempo is marked 'Andante'. The music features a single melodic line with various fingerings (1, 2, 3, 4) and articulations (accents, slurs). The second staff includes circled numbers 5 and 6, possibly indicating specific techniques or fingerings. The third and fourth staves continue the melodic development with more complex fingerings and articulations. The fifth staff concludes the piece with a final cadence.

ウラディミル・ポプリ

Lento

1/2 CHI

Musical score for 'Lento' in 2/4 time. The score consists of two staves of music. The tempo is marked 'Lento'. The music features a single melodic line with various fingerings (1, 2, 3, 4, 5) and articulations (accents, slurs). The first staff includes circled numbers 4 and 5, and the second staff includes circled numbers 3, 4, and 5. The piece concludes with a final cadence.

ロベール・ド・ヴィゼー(1650-1722)は、ルイ14世の宮廷ギタリストおよびリュートニストで、皇太子の先生でした。彼は王に一群の美しい曲をささげました。ド・ヴィゼーがその献呈文の中に入れている賞賛のことばの中に、ひとつ魅力的なものがあります。“殿下の手は軍隊に戦いの指揮を与えられるのと同じ巧みさでギターを弾かれる……”

メヌエット

ロベール・ド・ヴィゼー



この曲は、フェルナンド・ソルの弟子のひとり、ナポレオン・コストによって作られました。これは今までのものよりほんの少しむずかしいのですが、あなたはきっとこれをマスターしてくれることと思っています。

ナポレオン・コスト

The image displays a page of guitar sheet music for a piece by Napoleon Coste. The music is written on four systems of a grand staff (treble and bass clefs). It includes various musical notations such as notes, rests, and fingerings (0-4). The piece is in 2/4 time and features a key signature of one sharp (F#). The first system ends with a circled '2' above the final note. The second system ends with a repeat sign. The third system begins with a double bar line and repeat sign. The fourth system ends with a double bar line and repeat sign.

あるロシアの詩人が、かつて彼の恋人に2行の甘美なマドリガルを贈ってこう言いました。“いとしい人よ、許しておくれ。これをもっと短くする時間がなかったのです……”
わたしが作曲した《短い逸話》も同じ意味あいを持っていると言えるのですが。

短い逸話 (民謡)

アンドレス・セゴビア

Andante

6^a in D (⑥弦をDに下げる)

The musical score is written for guitar in 6/8 time, 6^a in D. It consists of four staves of music. The first staff begins with a dynamic marking of *p* and includes a *mf* marking later. A *1/2 CX* marking is present above the first staff. The second staff starts with a *CVIII* marking and includes a *p* marking. The third staff has a *CV* marking. The fourth staff concludes the piece. Fingerings are indicated by numbers 1-4 in circles, and some notes have circled numbers 2, 3, 4, 5, and 6. Crescendo and decrescendo markings are used throughout the piece.

2 < クレッシェンド(だんだん大きくする) > > ディミヌエンド(だんだん小さくする)

この練習曲はディオニシオ・アグアドによって作曲されました。これは右手の p, i, m の 3本指のアルベッジョの練習として有益です。

ディオニシオ・アグアド



これはわたしがずっと前に作曲した和音の小練習曲です。

和音の練習

アンドレス・セゴビア

Andante

The musical score is written for guitar in the key of D major (one sharp) and 2/4 time. It consists of three staves of music. The first staff begins with a treble clef, a key signature of one sharp, and a 2/4 time signature. The tempo is marked 'Andante'. The music starts with a piano (*p*) dynamic. Fingerings are indicated by numbers 1-4 above notes. A circled '2' is placed above the second measure. The second staff continues the piece, featuring a circled '3' above a measure. The third staff includes a 'CII' (Capo II) marking above the first measure and a 'poco rit.' (poco ritardando) marking below the final measure. The score includes various guitar-specific notations such as natural harmonics (indicated by a circle with a dot), fretted notes, and rests. Dynamics like *p* and *poco rit.* are used throughout. The piece concludes with a circled '5' at the end of the final measure.

この練習曲はナポレオン・コストによって作曲されました。フェルナンド・ソルの影響がありますが、そのチャーミングで、メロディックな、しかも詩的なテンポはこの影響によるものと思います。

ナポレオス・コスト

Allegretto

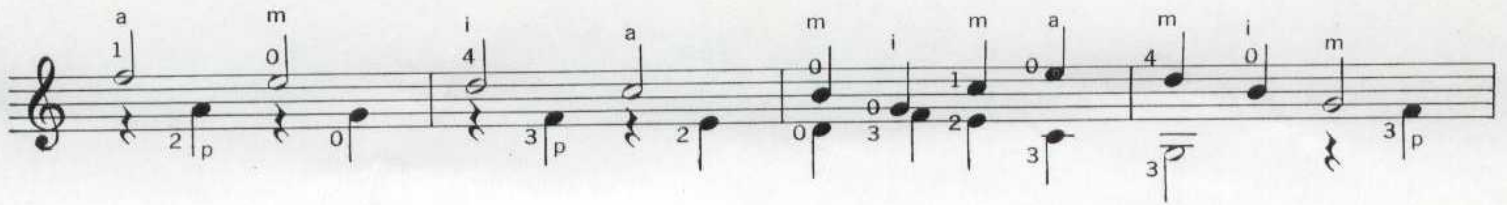
rit. molto

The musical score is written for guitar in G major (one sharp) and 3/4 time. It consists of five systems of music. The first system is marked 'Allegretto' and the second system is marked '*rit. molto*'. The score includes a melody line and an accompaniment line. The melody line features various fingering numbers (1, 2, 3, 4) and articulation marks (accents, slurs). The accompaniment line features various fingering numbers (0, 1, 2, 3) and articulation marks (accents, slurs). The score ends with a double bar line and repeat dots.



わたしの頭は石で作られました。それは寛大な神様によってではなく、すばらしい彫刻家エンリケ・ペレス・コメンダドールによって。

ナポレオン・コスト

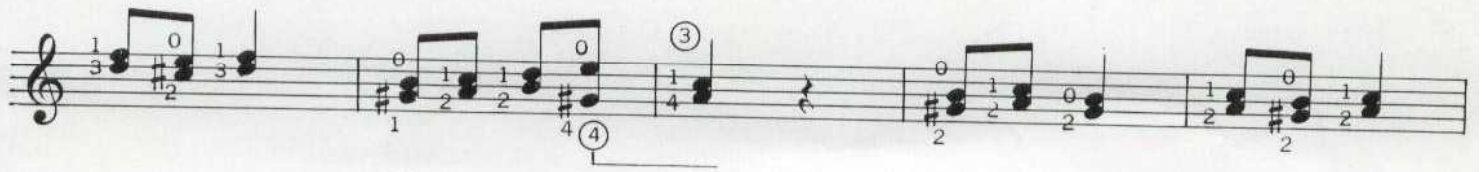




このギターをひくエンジェルは画家イボリト・イダルゴ・デ・カビエデスの作品で、彼からわたしの息子カルロス・アンドレスにおくられたものです。

この小品はディオニシオ・アグアドによって作曲されました。これは3度の重音をひく手はじめの練習として役に立ちます。

ディオニシオ・アグアド



Minore

0 1 2 1 0 1 2 1 1 1 4 2 1 3 2 4

CVII

2 3 4 0 0 1 2 1 4 2

CII

2 1 0 1 3 0 2 1 0 4 3 3

4 2 1 4 1 0 1 1

CII

D.C. al Fine

2 1 0 3 4 3 4 2 2 1 0 4 0

59

この曲はニコロ・パガニーニ(1784-1840)によって書かれました。彼はその時代のもっともすぐれたヴァイオリニストで、以後ヴァイオリンのテクニックの手本となりました。

パガニーニ作曲のギターのための小品

ニコロ・パガニーニ

Allegretto scherzando

